

堺市障害者グループホーム事業者研修 実施報告

日時： 平成25年2月6日（水）13:00～15:00

場所： 堺市総合福祉会館 5階 第1研修室

主催： 堺市障害者自立支援協議会

対象： 市内障害者グループホーム・ケアホームのサービス管理責任者・世話人・生活支援員

定員： 36人

申込人数： 34人

参加人数： 31人（当日欠席3人）

（1）挨拶

前田部会長（堺市障害者自立支援協議会障害当事者部会）

（2）「障害当事者部会交流会」で集まった利用者の声

前田部会長（堺市障害者自立支援協議会障害当事者部会）

白石委員（堺市障害者自立支援協議会障害当事者部会）

梶田委員（堺市障害者自立支援協議会障害当事者部会）

松本委員（堺市障害者自立支援協議会障害当事者部会）

谷口委員（堺市障害者自立支援協議会障害当事者部会）

※ 平成24年10月に開催したグループホーム・ケアホーム利用者との交流会における「利用者の生の声」を紹介。

（3）グループディスカッションシート

テーマ： 障害当事者の声を踏まえ、サービス提供のあり方について共に考える

【以下、各グループの「グループディスカッションシート」への記載内容】

グループ①

- ・ 精神障害のホームは他の障害と少し異なる。相手に安心していただく。言葉に注意するように。本人が自立するのを支援、冷静に観察。個人のプライバシー。どうすれば安心できるか。経験必要。
- ・ 世話人とどういう関係をもてばいいか悩んでいる。世話人が仕事をしやすくコーディネートするのが仕事。環境づくり。世話人が休む部屋がないホームもある。
- ・ 世話人との関係、悩みながら。共同で支援、仕事がしやすいように。
- ・ 世話人同士の連絡ができる体制も。個人情報など、ファイルがいっぱいになる。
- ・ 利用者の要望などをメモで、サービス管理責任者から全体化。ファイルの利用。単純な連絡事項と重要な連絡。

- ・メールの活用。デリケートなことは直接。
- ・メールとFAXと電話を全部使うことも。
- ・シンプルに、1冊にというのが大切。ホームの数だけ。
- ・書くのに時間も。
- ・「利用者主体」はよく言われるが、実現するのが難しい場合も多い。支援者の「こうしているつもり」も利用者の受け取り方は様々。知的障害の重い方の「利用者主体」、自己選択も困難な方の主体的な生活とはどのようなものか。他のホームは？
- ・押しつけていないか。「やりたい」こと。私達の力量不足とか。
- ・知的障害が重度の人と軽度の人で違う。
- ・密室になってしまう。風通しのいいホーム、ネットワークづくり。お互いのいいところを共有。まだまだ、グループホーム・ケアホームは発展し続けている。
- ・利用者主体はわかる。自ら望んで入った人と、事情で来なければならなかった人。主体的に入居されたわけではない人。「家に帰りたい」。でも、居ておいてもらわないといけな。望まずに入り、自分の家に行けない、その人にホームに定着してもらおう。利用者主体ではない。
- ・帰れない人。家族さんへの暴力。ホームが家。年末と盆に会いに行っている。

グループ②

- ・ホーム、障害特性によって考える必要性。公共料金、職員配置、ホームによって大きな違いがある。食事時間を決めず、朝食、昼食、夕食も本人が選択することができるようにしている。全員集まって食事をすることはない。
- ・自分の意見を言える方がいない。24時間対応。家庭的。全て、世話人が行っている。決まりごとは利用者ではなく、関係者で決めている（本人の思いをくみとって）。週末や月に一度、帰られる方はいるが、ほとんどホームで過ごす。体調管理も含めて支援。食事介助はなし。日中は作業所で過ごされる。
- ・24時間。アットホーム。重度の方から軽度の方まで幅広い。決まりごとはある。生活リズム、体内リズムも考える必要があるため。次の日に差し支えないように、また、感染予防なども含む。
- ・決まりごとについて、納得していただかないと難しい。決まりごとが押し付けにならないようにしないとけない。配慮が必要。
- ・集団生活なので決まりごとはある。特に生活リズムが乱れないように（昼夜逆転しないように）行っている。感染予防。ただ、この決まりごとが押し付けになっていないか、見直しをするようにしているが、なかなか難しい。
- ・決まりごとについて、一人ひとりの障害に合わせて、利用者の方にとって必要であろうと思うことであっても、納得できない。スタッフのきめ細かな配慮が必要ではないか。

【住居の問題】

- ・府営住宅の限界。5段の階段が上れない。本人の意思だけでは難しい。階が違う場合、世話人1人での対応は難しい。
- ・利用者の家族が家を提供。

- ・ 府営住宅の5階。現時点では困っていないが、今後は難しくなる。世話人は大変。利用者、世話人、サービス管理責任者と話し合う必要性。医療的専門家からの意見も聞いている（体調、体力面）。
- ・ 府営住宅にも色々ある。押し入れの大きさ、住環境の問題。今後住んでいけるのか？
- ・ 一軒家で6部屋、廊下を挟んで個室。住宅に関しては問題なし。安全確認もできる。
- ・ 福祉住宅の考え。

【カギ】

- ・ 本人にカギを渡している。
- ・ 二重のカギ付け等の配慮が必要。身の危険を防ぐため。
- ・ 基本は閉めている。
- ・ 個々に時間が違う事がないため、利用者の必要性がなく、身の危険性を防ぐため、カギは渡していない。
- ・ ホームによって、人によって（カギの管理のできる方には渡している）支援が違う。
- ・ 府営住宅は、ホームが必ずカギを付けている。

【その他】

- ・ 対人関係。利用者、家族と話し合い転居をお願いすることがあった。
- ・ 近隣との関係性。
- ・ 消防法の問題。
- ・ 利用者同士のマッチングの難しさ。

グループ③

- ・ 入浴や金銭面、日常生活について。
- ・ 利用者の障害は様々。情緒の起伏が激しい。入ってくる時期もバラバラ。サービスのバランスがむずかしい。かまいすぎの面から、重度の新しい利用者に対して偏ってしまった。利用者からすれば、どうなのか？
- ・ 利用者が主体。スタッフがルールをつくる（押し付け？）、そういう面も必要だが…。
- ・ 自分たちで決めるミーティングがある。以前のホームではスタッフが決めていた。本当に利用者はこれでいいのか？ 利用者の意見も。
- ・ 日中は通所、夕方からホーム。軽度で、あまり手がかからない。介護の問題。利用者のニーズばかり聞いていたら、その先の健康問題…。食事、入浴介助は不要であるが、洗濯等は必要。今現在よりできることなど、増やしてほしい。スタッフが変わるので、連携がとりづらい。
- ・ 親が高齢化。どうしても重度の利用者には、コミュニケーションの難しさがある。ニーズが何なのか？ スタッフの都合になってしまうことがある。お互い同意があれば、いいのだが。
- ・ 制度自体、浅い。不安定。名前だけ世話人。育成の基準がない。スタッフ個人の質でぐらりと変わる。食事でもスタッフが変わっておいしい、まずいが変わったら…。
- ・ 生活の場として、立ち位置が低い？ 制度の格差（日中の場と生活の場）。事業所としては頭数だけそろえれば、という部分もある。生活の質の裏付け。

- ・ 重度の方が入居。コミュニケーションはとれる。歴史がある。利用者主体が徹底されている。食事も決める。健康不良になって自己責任。ビールもあり。健康管理の面でどう伝えるか？ 放っておいてくれという人もいる。スタッフがダメなら、先輩当事者に言ってもらおう。献立も決めてスタッフ、ヘルパーが作る。買い物は頼まれて購入。本人が買う時もある。自立に向けて生活。建前は任せる。スタッフの言うことを聞く人もいるし、受け入れる人もいる。失敗も経験。全部自分なので、お金を使うこと自体初めての人もいる。月1回、ホーム会議にかけて話し合う（利用者のみ）。利用者同士で解決。新しい人は、初めは慣れずに戸惑う人もいる。運動をしてきた。社会に出てどうか？ 社会に出て困らないように。
- ・ 住んでいる環境の悩み。酒、喫煙の問題。一定のルール作り。弁当代を減らしてもなお吸ってしまう。タバコ、コーヒー、鉢植えをたくさん買ってしまう。花で埋めつくされる。なかなか収まらない。お金を持ったら使うだけ使う。それが楽しみ。食事もカロリーなどを考慮して作る。食事習慣もなおらない（早食い等）。本人のやりたいことをしてもらうのか。お金、健康面の問題が出てくる。
- ・ 基本的に喫煙等はいいが、一定のルール（場所、後片付け）、吸っていい場、ダメな場を教える。吸うのであれば、条件をつける。親に頼むことも。
- ・ 本人のニーズはどこに？ ある事業所では「ほったらかし」の支援。
- ・ 利用者の思い、スタッフの思い、のバランス。一人ひとりの考えのちがいがい。
- ・ 食事、喫煙、お酒。どれが利用者にとって一番いいのか？
- ・ 利用者へのサービスの偏り。どれが利用者の思いか？ やりたいことだけさせるのか？

グループ④

- ・ 支援者目線ではなく利用者目線。
- ・ 利用者主体の生活。利用者の考え。ルールでしぼることなく…。
- ・ ある親の声。利用者、支援者が幸せにならないといけない。
- ・ 介護者の交代で支援者が不安になる。24時間の支援にプライバシーはあるのか？
- ・ 大小に関係なく利用者の声を聞く。
- ・ 意見を誘導していないか？（支援者目線）
- ・ ミーティングの機会を設け、利用者の意見を拾う、聞く。
- ・ この仕事をしてよかったこと。ありがとうと言われたこと。

グループ⑤

- ・ 利用者の具体的な声を聞いて新鮮。考えさせられた。
- ・ 支援者の言動が利用者の行動や暮らしを制限してしまっていないか？ 利用者が望んでいることを支えるには？
- ・ ある利用者が、準備はしていたが急に病気になり、その対応に試行錯誤している。答えがないので、意見が分かれるので悩んでいる。
- ・ 高齢化問題に直面。
- ・ 共有している暮らしの場面を支援している。

- ・ 投薬管理、危機管理上の問題
- ・ 利用者本人の「～したい」にどこまで寄り添うのか？（例：ピール）
- ・ その人自身や病気のことなど、総合的に見ながら対応している。基本的にはその人の気持ちに寄り添っている。
- ・ ホームを出て一人暮らしをしている人。
- ・ 「結婚したいけど2人では不安」とのことで、30歳代の夫婦も入居。一人ひとりをよく知らないに適した支援ができない。その人に合わせた暮らしを共に考えていく。
- ・ グループホームを「通過型」ととらえるか、「終の棲家」として考えるか。
- ・ 身体障害の方は急に変化。70歳代の高齢の人もあるが、急変した時にどうしたらいいのか？
- ・ 看とりまで考えているのか？
- ・ 本人が看とりを望むのであれば、考えてあげたいと思っているが…これからの課題。医療的なことを伴う時は…等、悩みは尽きない。
- ・ 一人職場なので、夜間、判断を求められるのは仕事としてキツイ。
- ・ 精神障害の場合は逆に、夜間に支援者がいると「気になって寝られない」という人が多く、夜間は配置していない。
- ・ 夜間に事故や事件があって駆けつけるのは、年に1～2回。
- ・ ご近所との付き合いをどうしているか？
- ・ 町内会の掃除に参加したり、年末の火の用心。
- ・ 近所の人に会ったら立ち話をしたり、関係をつくっているが、少し遠く離れた人ほど、何かあったらうちのせいにされそうになる。「顔がみえる」ということは大切なんだと思う。
- ・ 利用者と一緒に部屋の片づけをしたり…。
- ・ 仕事をしている時、どうしても精神保健福祉士としてあれこれ思うが、主婦のキーパーさんに「みんな家ではこうやん」と言われ、ハッとすることがある。利用者の部屋の掃除など、皆さんはどうしているか。
- ・ 利用者に断わってから自室に入らせてもらって、支援者2人で意見を出し合いながら行っている。
- ・ 精神障害の場合、調子のよい時はOKだが、調子の悪い時は「勝手に部屋に入りやがって」になってしまう。
- ・ 自閉症のこだわりの強いAさんは、ゴミでも本人にとっては宝物。調子のよい時に声をかけ、捨てている。行動を制止する時、寄り添う時の線引きが難しい。
- ・ 長くかかわるほど、本人にとっては大切なものが分かるので、より悩む。

グループ⑥

- ・ 入浴支援、通院同行。以前は福祉ではない仕事をしていたので、全てが新鮮だった。
- ・ 20～30歳代。皆さん就労されている。人間関係の悩み。利用者がどのように判断するか。それぞれの立場があるが、人のことを思いやり、協調できる姿にグループホームの良さを感じる。

- ・ 現在アパート5軒を借りている。一人ひとりの部屋は独立、共有スペースは2階。精神障害者が対象。地域移行の担い手のグループホーム。地域の人たちの受け入れは難しい現実。地域で住む応援がしたい。就労、家族関係、皆が抱えている問題。場所が少ない。支援者、利用者の立場を超えて、市民レベルで話し合えた時の喜び。薬の開発、理解、お互いの願い、人権をテーマに共感できる喜び。
- ・ 障害が違くと、支援の仕方も違うのでは。そのようなことを知りたい。
- ・ 自分自身、兄弟に障害者がいる。他の障害の方のことも知りたいと思い、この仕事についた（以前はサラリーマン）。最初来たときは「えらいところに来た」との思い。自閉症の人の行動に振り回される。入浴はヘルパーに来てもらっている。
- ・ 利用者を通して、自分が希望したように生活できなかったルーツに携わる中で、自分の周りでも引きこもりやウロウロした行動のある子ども達もあり、その人たちがどのように生きていくのか、に関心がある。誰に相談、どこに相続、親に代わって、誰が支援するのか、心配。時には犯罪にまきこまれるのではないかと感じる必要がある。その時にこういう所に行ってみようとは自分は分かるが、それを知らない人が多く、放っておくと大変なことになるのではと感じる。自分でコントロールできないことに本人は苦しんでいるのに、そこに支援がないことが多いのではないかと感じる。心配になることが多い。情報のアンテナを張っておく必要がある。
- ・ 利用者みんなが違う。高齢化は共通、介護保険対象。作業所ではなく、デイサービスのほうがよい人。話が合わない。発病までに得た知識や状況が、そこで止まっている。障害がありながら高齢になることの課題を今から考えていく必要。
- ・ 重度の人の対応の課題。軽度者の対応。通院、高齢化の課題。
- ・ 精神障害は、支援費制度では別だった。自立支援法で初めて一緒になった。3障害一緒に行動できる場ができた。これがないとずっと隔離されたのではないかと感じる。30年のブランクが引き上げられた。他の障害の制度から学べるものは多い。もうしばらくは他の障害のお互いのことを情報交換して、生かしていきたい。位置付けていきたい。
- ・ 福祉の仕事はどうか。女性が多い。給料は手取りで20万円をもらったことがない。このような中で頑張るというものは何があるのか。まだまだ仕事の情熱がないと続けていけないのではないかと感じる。男性職員は貴重な存在。この時代にまず職員もいろんなやり方を当事者から学び、仕事の実力を高めていきたいと思います。

(4) アンケート結果

※ 回答者数：31人（回収率：100%）

- ① 「障害当事者部会交流会で集まった利用者の声」はどうでしたか
- | | | |
|---|----------------|-----|
| 1 | よかった | 29人 |
| 2 | どちらかと言えばよかった | 2人 |
| 3 | どちらかと言えばよくなかった | 0人 |
| 4 | よくなかった | 0人 |

【その他、ご意見等】

- ・ 当事者の発言が非常によかった。必ず今後も。
- ・ リアルで心に響きました。「本人主体」と口で言うのは簡単ですが、貫くのは難しい。
- ・ 利用者本位のホームを考えるにあたり、大変参考になりました。
- ・ 未熟な私にとって、いろいろ話が聞けて、勉強になりました。
- ・ 当事者の方の声が聞けてよかったです。
- ・ 合同キーパー会議で紹介したいと思いました。
- ・ 利用者の方々の率直な意見が伺えて、貴重な意見でした。自分の支援を振り返る機会になりました。
- ・ 当事者の方の話はとっても貴重でした。
- ・ 直接かかわっていない利用者さんの声、普段聞くことのない貴重な意見を聞かせていただけた。どんどん発信して下さい。
- ・ 当事者の方の声を聴く機会がなかなかなく、貴重な場でした。
- ・ 資料説明と、利用者の声を最初に当事者部会の数名が補足していただけた、深めることができたのはよかった。
- ・ 個人個人の生活をもっと考えていかなければいけないと思いました。
- ・ 問題がたくさんあることが解る。
- ・ 障害を持っておられる方の生の気持ち、意見を聞くことができとてもよかった。
- ・ 利用されている方の実際の声を聞くことで、自分はどうだったのかと振り返ることができた。良い意味で「対等に付き合う」ということを考えていきたい。
- ・ 利用者本人の意見を直接聞くことができ、自分たちの支援を振り返る機会になった。

② 「グループディスカッション」はどうでしたか

- 1 よかった・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 29人
- 2 どちらかと言えばよかった・・・・・・・・・・ 2人
- 3 どちらかと言えばよくなかった・・・・・・・・・・ 0人
- 4 よくなかった・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 0人

【その他、ご意見等】

- ・ 大変勉強になりました。
- ・ 進行役でしたが、みなさんに充分発言していただけたか、考えていることを伝えていただけたかどうか、ちょっと気になりました。
- ・ 3障害それぞれの立場からグループホーム・ケアホームの現状が分かり、大変よかったです。
- ・ いろいろな施設の方のご意見を聞くことができ大変勉強になりました。
- ・ 他のケアホームのことなど、ある程度わかり勉強になった。
- ・ 他法人、また他障害のホームのことが聞けて有意義でした。
- ・ 各々のホームでの悩みや状況が出され、共感できることや参考になることが多々ありました。とても良かったです。

- ・ 他法人の支援観や工夫していることなど、聞いてよかったです。
- ・ 知的、精神、身体、異なった立場ではあるが社会的弱者であることには変わりなく、共感し、共有し、互いに研鑽したい。
- ・ まわりの声とグループの声が混ざってしまって聞き取りづらいところがありました。もう少し、広いところ（2部屋くらい）をとって、聞き取りやすい環境にしてほしい。
- ・ 他のグループホームの話をいろいろと聞いてよかったです。
- ・ 様々な障害のホームの職員さんの話が聞いて、とてもよかった。
- ・ 各事業所の支援の違いがあり、勉強になりました。
- ・ 各ホームの問題点や進め方など話し合っ、いろいろな考え方があることに気づく。
- ・ 利用者主体のホームづくり等、同じ思いを持っている方と話し合えてよかったです。
- ・ 様々な事業所の話が聞いてよかった。
- ・ もう少し時間をとってよかったです。
- ・ 精神は1人で、他の方が知的という部分での分かれもあったのか、思うような話ができなくて、他施設の特徴との比較はできるが、今ひとつでした。
- ・ 他事業所の支援者と悩みを共有したり、意見交流する機会はあまりないので、参考になった。

③ 今後、どのような研修を希望しますか

- ・ 3障害のかかわりの違い、注意しているところの違いなどを知れるような報告から共通点を見出す。
- ・ 続編を期待します。
- ・ 年に数回は研修でこのような集まりがあると勉強になると思います。
- ・ 支援者さんのいろんな経験をもっと教えてもらいたいです。
- ・ 今後も同様の研修をしていただきたいと思います。（当事者の方の声が聞ける場）
- ・ 発達についての研修を希望します。
- ・ 自由に本音でディスカッション出来る場が必要。
- ・ 当事者の方の声、願い、という視点は本当に重要だと思います。
- ・ ケアホームの取り組み（他施設）の実際例をたくさん知れる場があればと思います。
- ・ 利用者さん側からの（きびしい）意見を常に聞けるように、研修がたくさんあればいいと思いました。
- ・ 障害をもっておられる方々や、その方を支援されている方々との意見交換ができる場を、もっと作ってほしい。
- ・ 今回と同じような研修。回数をもっとあれば嬉しいです。
- ・ ネットワークの強化
- ・ ぜひ続けてください。
- ・ 休みの日の過ごし方などのあり方の研修。休日がどうしてもパターン化してしまします。
- ・ 当事者部会の方も、各グループ討議に入ってもらった方がよかったのでは。積み重ねと準備が大切と思う。ネットワーク化やグループホーム運営の「ガイドライン」とかも

できれば。(積み重ねの中で)

- ・ この交流会を持続していただきたい。
- ・ また、いろんなホームのお話を聞きたいです。
- ・ 色々な職種との交流会（ケアマネ、看護師、医者、PSW等）
- ・ 障害者の方々との意見を交換する場もあってよいかなあ。
- ・ 当事者と合流した研修がもっとあればいいと思った。
- ・ 各ホームにおいての問題点を挙げて、支援者側同志でもっと話し合い、結果まで調べてみたい。
- ・ 研修会を継続的に続けてほしい。
- ・ 利用者さん、ご家族のホームに対する意見や思いを聞ける場がほしい。
- ・ もっと横のつながりが持てるように研修回数を増やしてほしい。
- ・ 1つの課題を与え、グループディスカッションをする。この形の研修を受けた時の充実感が今も鮮明に残っているので。
- ・ 権利擁護の視点を持ったかわり、支援についてあればうれしいです。
- ・ 高齢障害者の今後の暮らしのあり方。ケアホームにおける医療的ケアについて。
- ・ 同じようなこと。

④ その他、お気づきの点がございましたらご記入ください

- ・ 年1回は少ない。研修、情報交換など目的別で。
- ・ 他の事業でも、当事者を交えて行くとよい。
- ・ 当事者さんの意見を聞いて、よかったです。
- ・ 当事者の方の生の声はとても心にひびきました。自分の仕事を振り返り、活かしていきたいと思います。ありがとうございました。
- ・ ありがとうございました。
- ・ 時間が少ない。
- ・ いろいろな支援者の意見が聴けて大変よかった。